

香々地青少年の家宿泊学習特集

<協力して><進んで><自分で考えて>

7月10日(水)・11日(木)、4～6年生が香々地青少年の家で宿泊学習を行いました。現地での主な活動は、磯遊び・サップ・海水浴・プラネタリウム・勾玉づくりです。

この宿泊学習に向け、子どもたちは、全体のめあてを「1. みんなで協力する、2. 進んで行動する」と決め、さらに、縦割り班で分かれたグループ毎に、ひとつひとつの活動のめあてと活動内容の確認、注意事項、持ち物について話し合い、自分たちでしおりも作成しています。

現地に到着すると、割り当てられた部屋に荷物を入れた後、磯観察に出発。急な坂を下り、もうすぐ観察場所というところで、なんと大きなイノシシに遭遇。安全第一に元の道に戻ることになりました。中止した磯観察の代わりに、別方向の砂浜に行き、ひざまで海につかりながら、山間の大田とは違った自然体験を楽しみました。

昼食の時間。食堂に行き、担任が自分たちで考えて準備するように促すと、<ご飯をつぐ><お汁をつぐ><お茶をつぐ><はしを並べる>等、各々が状況を見ながら自分の役割を見つけ、進んで準備に取りかかります。みんなで協力して、短時間で準備完了。食後の片付けも分担し、てきぱき片付けます。立てためあての「協力」「進んで」が意識され、自分で考えながら行動できていた子どもたちです。



午後は、まず入所式。式では、私から、事前に子どもたちが立てためあて“・協力する・進んで行動する”に加えて、「自分で考えて行動する」ということも大事にして取り組んでほしいことを伝えました。

午後の活動は、海で専用のボードに立ってパドルで漕ぎ進むサップ体験です。まず、二人一組になり、協力して長く重さのあるボードを海の中まで運んでいきます。そして、交代しながらサップに挑戦。所員の方に教えていただいたコツの、“遠くを見る”“ピンと足をのばす”を意識しながらボードに乗ります。4年生以外は昨年度も経験しているからか慣れたもので、すぐにボードの上に乗っています。なんと初めて経験する4年生もすぐに立つことができました。カヌーが得意な養護教諭の田嶋先生も挑戦してみましたが、ボードの上立つと足がふるふる震えて、バランスを取るのが難しいのだそうです。そんな難しいことも、すぐに習得できる子どもたちには脱帽です。



2日目の活動は、勾玉づくりです。勾玉づくり用の長方形の石を、やすりを使いながら自分で削ります。削った後、飾りとなるビーズに二重の紐を通さないといけません。これが思った以上に難しく、私も四苦八苦。紐がなかなか通らず困っていた友達の様子を見ていた子が、「かして」と言っ、紐を通してあげています。困っている友だちに手助けする姿も見られます。そうして、世界に1つしかない自分だけの勾玉を全員が作り上げることができ、2日間の全活動を終了しました。



引率する私も職員は、「子どもたちが自ら考え、進んで行動することができるよう、教師の指示は最低限に控え、子どもたちに考えさせ、任せる姿勢でいる」ことを確認し、臨んだ2日間でした。例えば、各活動の集合において、教師が、「〇時〇分までに集合してください」とか、「急いで。遅れるよ」などと、指示や声かけをしてしまいがちになるところを、「集合が遅くなくても、先生たちは“急ぎなさい”とは言いません。遅くなったら活動時間が少なくなります。自分たちで考えて行動してください」とだけ伝え、活動の度に集合時刻を子どもたちに考えさせました。すると、子どもたち同士で声を掛け合い、誰も遅れて集合することはありませんでした。

退所式で、私が入所式の際に話した3つの大事にしてほしいことについて、子どもたちに振り返ってもらおうと、どの子も“・協力する・進んで行動する・自分で考えて行動する”ことができたと挙手していました。挙手した通り、子どもたちが協力し、考え、主体的に過ごすことのできた大変充実した2日間であったと、私も教職員も実感しています。

今回引率した私どもが大事にした「子どもたちに考えさせ、任せる姿勢」は、子どもたちの育ちに大きく関わるものであることを、今回の宿泊学習で改めて感じています。

また、このことは、宿泊学習のみならず、日頃の学校生活においても大切な教師の姿勢であり、学校教育目標「ふるさとを愛し、進んで考え行動する 笑顔輝く大田っ子の育成」につながるものです。この姿勢を常に意識しながら、今後も子どもたちに接してまいりたいと思います。